

— 卷頭言 —

「恵泉の園芸」の継承と発展をめざして

前学長 石井 摩耶子

私どもの大学に園芸文化研究所が設立されてから、はや1年が過ぎた。すでに2年前から箱田所長の下で短期大学の方々とご一緒に準備委員会を重ねた上でのスタートであった。昨年7月には開設記念式典を執り行い、六本木の恵泉園芸センターのご尽力でヒクソン先生をお迎えしてのフラワーアレンジの記念公演会を開催し、近隣の方々にも喜んでいただけた。夏休みからは学校花壇の設計・実習講座などユニークな公開講座を実施できただけでなく、秋には「恵泉の園芸」に関する共同研究プロジェクトもいくつか立ち上げることができた。そして今、研究所報告の創刊に至ったことは、喜ばしい限りであり、感謝に耐えない。

顧みれば、ここ10年ほどの間に私は学園創立者河井道先生がお書きになった『わたしのランターン』と『スライディング・ドア』の2冊のご著書を何度読み返したことだろうか。この10年は、開設間もない本学にとって、短期大学英文学科・園芸生活学科の両教授会が4年制大学への移行を決議したことに始まる試練の日々でもあった。私は先生のご著書を通して、「恵泉の園芸」の真髄は人間教育としての園芸であると確信するに至った。先生の園芸教育の原点には、先生ご自身の北海道札幌のスミス女学校での体験が脈々と息づいていることが『わたしのランターン』の1節から良く分かる。学校の庭に生徒たちはめいめいが小さな地面を受け持ち、好きなものを植えることができ、彼女は苺作りに挑戦した。「毎朝忠実に、養分

がある米のとき汁をかけ続けたが、葉の気孔を塞ぐことになってしまい・・・苺が窒息して枯れてしまった時、私は園芸の実地の最初の教訓を学んだ」と書いている。神によって創造されたこの自然の持つ力、大地に根ざして育つ植物の生命力の不思議、それを実習の中から学んでいくことの大切さを考えさせられる一文である。

また、『スライディング・ドア』には、彼女がカリキュラムに「園芸」という教科をおいたことについて、「私は、体を動かす肉体労働に対する尊敬と自然にたいする愛情を園芸を通じて少女たちのうちに養いたいと願っていた」と記している。1934年に「アメリカ女性庭園クラブ」の100人を超える会員たちが日本庭園の視察に訪れた際に、彼女たちの専門的知識の豊富さに引き換え、そのガイド役を務めた日本の女性たちの知識の乏しさを思い知らされた河井先生は、日本の女性たちにも「母なる大地に文化的、実践的、また科学的関心をもってほしい」と切望したのである。この「文化的」「実践的」「科学的」という3つの形容詞が併記されているところに注目したい。河井先生が望んだ高等教育における園芸教育は、他大学の園芸学部のように生産園芸を主たる目的とするのではなく、文化的・実践的・科学的な園芸教育であった。人間の手によって地球環境がこれだけ汚染され破壊されてしまった現代において、私たちの大学に課せられた使命は、科学的知識に裏打ちされ、しかも額に汗して畑を耕す労働に根ざし生活に密着した園芸教育を通して、いのちの大切さ、自然の営みの大切さに目覚め、神がつくられた美しい世界の回復のために希望を持って歩む女性たちを育てることではないかと考える。

『わたしのランターン』を読むと、1926年に河井先生は、園芸の教育構想を深めるために、まずアメリカを訪れるが、万事が大規模で日本のような小国では実際に役立たないのではないかと気づき、イギリス、ベルギーの園芸学校やデンマークの農家を訪ねたことが記されている。特にイギリスのケント州スワンレーにある王立女子園芸学校の夏期講習会に参加して、大いに啓発されたという。イギリス史の研究者として私はとても興味をそそられインターネットで調べたところ、この女子大は第二次世界

大戦後の1946年にロンドン大学に属する男女共学の南西農業カレッジと連合し、2年後には統合してロンドン大学のワイ・カレッジとなり、さらに1999年の法律で、ロンドン大学所属の科学技術インペリアル・カレッジの一部となって現在に至っている。2000年には、ワイ・カレッジが出品した薬草庭園が、園芸の世界的なイベントであるチェルシー・フラワー・ショウで、シェイクスピア時代風の薬草庭園として銀賞を獲得したという。スワンレーの女子園芸学校の伝統は、大学・大学院の教育の中に見事に継承されて今日に至っていることが立証されたといえよう。イギリスの文化や社会は、伝統を重んじつつ、時代の必要に応じて自ら革新をとげていくところに特色があるといわれているが、園芸の分野においても同じことが当てはまるのかもしれない。「恵泉の園芸」を考える上でも、私にはイギリスに学ぶべきことが多くあるように思われた。

大切な研究の課題は他にもたくさんあろう。様々な研鑽を重ね、やがて本研究所が「恵泉の園芸」の真価を世界に発信する拠点となることを願ってやまない。
(現・大学院人文学研究科長)

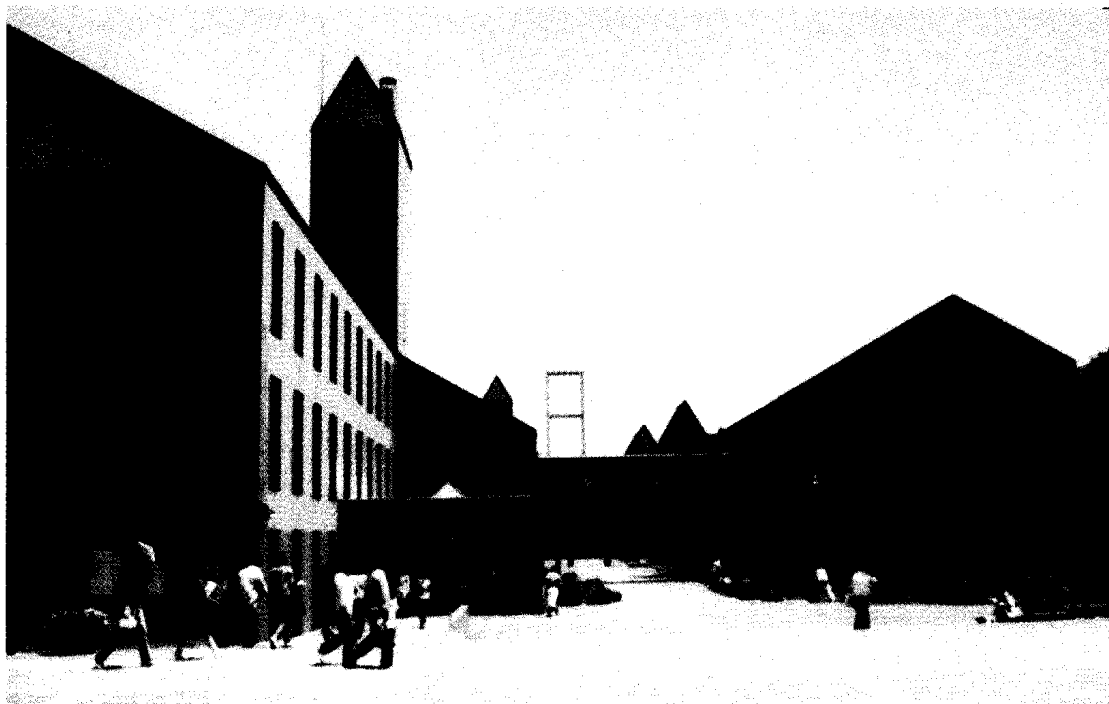


図1 恵泉女学園大学の朝